

付着生物ラーバ情報

ミネフジツボの付着ピークは過ぎました

1 ラーバ等の出現状況

ラーバ等の調査地点は図1、出現数は表1のとおりです。

(1) ミネフジツボ (通称：シロガキ)

ラーバは久栗坂沖で11.1個体/m³、野辺地沖で3.1個体/m³、川内沖で0.8個体/m³見られました (図2)。

(2) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは見られていません (図3)。

(3) キヌマトイガイ (通称：コメガキ)

ラーバは久栗坂沖で342.2個体/m³、野辺地沖で205.5個体/m³、川内沖で285.2個体/m³見られました (図4)。

(4) オベリア類 (クラゲの仲間、通称クサ)、アミクサ (海藻、通称クサ)

オベリア類のクラゲが野辺地沖で1.6個体/m³見られましたが、アミクサの小枝は見られていません。

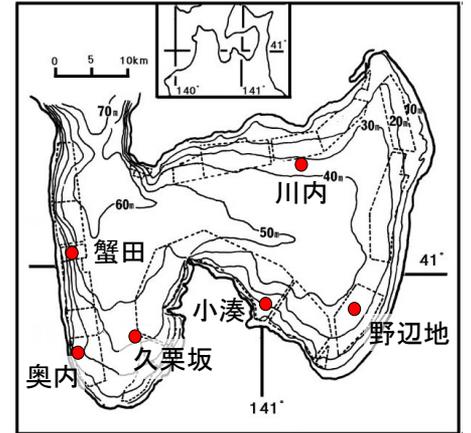


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ミネフジツボ	ユウレイボヤ	ザラホヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	単位: 個体/m ³	
							オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝
久栗坂沖	R3.3.1	11.1	0.0	0.0	342.2	145.0	0.0	0.0
野辺地沖	R3.3.4	3.1	0.0	0.0	205.5	113.3	1.6	0.0
川内沖	R3.3.1	0.8	0.0	0.0	285.2	233.6	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温は2~9℃台と平年並み~やや低めになっています。

(1) ミネフジツボ

付着直前のラーバが少し見られますが、**付着のピークは過ぎました。**

(2) ユウレイボヤ

水温は平年並み~やや低めに推移しており、12月~翌年3月の平均水温は8℃を下回ることが予測されています。また、奥内沖の累積ラーバ数も6.7個体/m³と多くなっており、一部のパールネットに秋生まれのユウレイボヤが大量付着していることから、**今春の出荷時の付着量は多いことが予測**されます。

(3) キヌマトイガイ

ラーバが継続して出現していることから、**箆や耳吊り、マボヤ採苗器への付着が増加**すると思われます。

(4) オベリア類、アミクサ

クラゲと小枝はほとんど見られていないので、**付着は少ない可能性があります。**

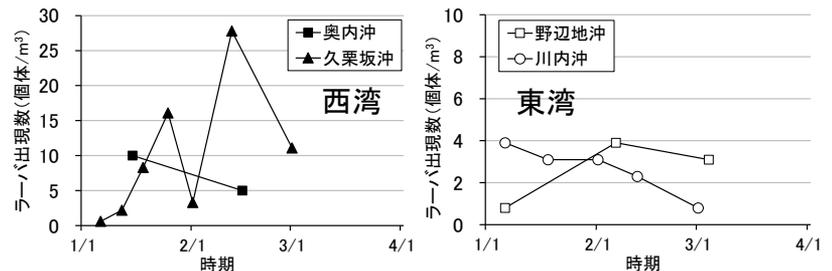


図2 ミネフジツボラーバ出現数の推移 (令和3年1月~3月)

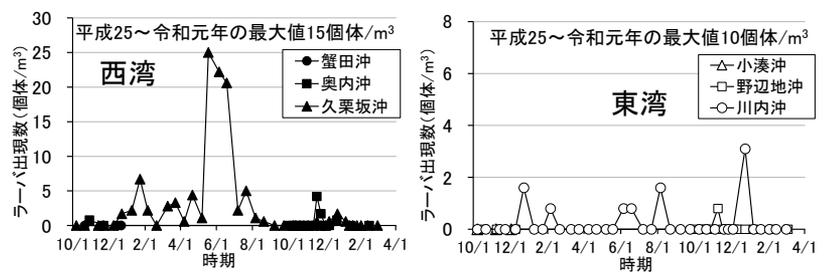


図3 ユウレイボヤラーバ出現数の推移 (令和元年10月~令和3年3月)

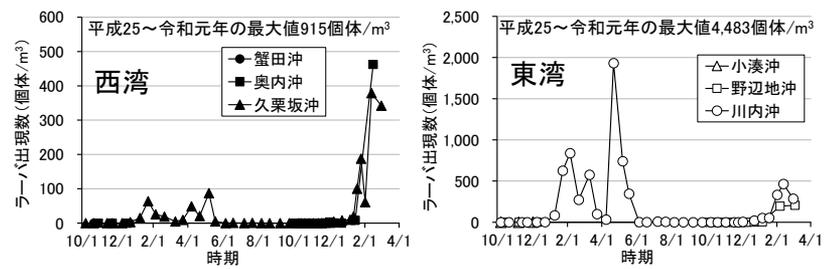


図4 キヌマトイガイラーバ出現数の推移 (令和元年10月~令和3年3月)

